

言語教育におけるビジュアル理解：学習者の視点からの探求

田村 芽（ペンシルベニア大学）

要旨

本稿では、言語教育で軽視されがちなビジュアルの解釈能力を日本語中級のコースで取り入れることで、言語教育におけるビジュアルリテラシーの育成の利点と必要性を探求する。ビジュアルリテラシーは、視覚的なメッセージを批判的に分析し、その社会的・文化的背景や権力構造を理解する能力を養う。特に言語学習においては、情報の深い理解やコミュニケーション能力の向上以外にも、ビジュアルメディアを通じて言語スキルを強化する効果があるとされている。本研究は、ポスター分析実践を通じて、学習者がビジュアル要素の効果をどのように評価し、ポスターに含まれる文化社会的背景の役割や、それがビジュアル解釈に与える影響を学習者の分析から検証することを目的とする。これにより、学習者が視覚的テキストを解釈し、言語化する能力を高めるだけでなく、批判的思考能力やコミュニケーション能力も向上することを明らかにする。

キーワード：ビジュアルリテラシー、言語教育、ポスター分析、批判的思考能力、コミュニケーション能力

1. はじめに

現代社会において、SNSやデジタルテクノロジーの進展により、学習者は画像に溢れた環境で成長しており、さまざまなビジュアルメディアが主要なコミュニケーション手段として重要視されている。そのため、静止画や動画などの「視覚的テキスト」を解釈し発信する力、すなわちビジュアルリテラシーの重要性が高まっている。ビジュアルリテラシーは、単に視覚情報を観察する能力だけでなく、情報に対して疑問を持ち、分析し、評価する批判的思考能力を育むものである。さらにそれを言語化することでコミュニケーション能力の向上も期待される。言語学習者の言語処理プロセスにも関連し、言語スキルの向上に貢献、現代社会で不可欠な視覚言語を学ぶ上でも有効であるとされている。しかしながら、言語教育においてはテキスト中心の教育が主流であり、ビジュアルの解釈能力は軽視されがちである。また、ビジュアルリテラシーを取り入れた実践はまだ多くない。本研究では、日本語中級コースでのポスター分析実践を通じて、学習者がどのようにビジュアル要素の効果を分析し、評価したかを考察する。また、ビジュアル解釈には文化的要素が大きな影響を及ぼすことから、ポスターに含まれる文化社会的背景の役割や、それらがビジュアル解釈に与える影響について学習者の分析を検証し、言語教育におけるビジュアルリテラシーの潜在的な利点を探求する。

2 先行研究

SNSなどのビジュアルメディアが主要なコミュニケーション手段となっている現代の学習者には、ビジュアルリテラシーは重要なスキルである。教育の場においてのビジュ

アルリテラシーとは、ビジュアルメディアをテキストとして批判的に捉え、検討し、視覚化、要約、理解のための質問などの認知戦略を用いる能力を指す (Thompson & Beene 2023)。ビジュアルメディアは単に情報を伝達する手段であるだけでなく、意味を深く理解し、批判的に評価するための複雑なプロセスを含むということである。よって、学習者がビジュアルメディアを詳細に分析し、その構成要素やデザインの意図を理解することで、視覚的なメッセージがどのように形成され、伝達されるかを把握することを学ぶことができる。Ferreira と Newfield (2014) は、ビジュアルサインを文章などのテキストと同様に分析することにより、学習者が視覚メディアの信憑性を評価し、論理的な推論を行い、視覚的な修辞やストーリーテリングの技法を分析する能力を養うことができるとしている。それにより、学習者は視覚情報を深く理解し、その影響をより意識的に捉えることができるということである。

また、ビジュアルメディアの社会的な意味を理解することで、権力のダイナミクスを認識する力も育まれる (Ferreira & Newfield 2014)。ビジュアルメディアは社会的、政治的、文化的なメッセージを含むことが多いため、ビジュアルメディアの分析によって、これらのメッセージがどのように社会的な権力や価値観を反映し、形成するかを理解する機会となる。Ferreira と Newfield (2014) は、ビジュアルメディアが持つ社会的な影響力を認識することで、メディアがどのように特定の視点や意見を強調し、または抑圧するかを分析する能力が養われると述べている。こういった点を理解することにより、情報の発信者と受信者の間に存在する権力関係が明らかになり、メディアの影響力やバイアスを批判的に考察することが可能となる。つまり、ビジュアルメディアを通じて社会的な権力構造を読み取ることで、視覚的な表現がどのように社会的な規範や意見を形成するかについての理解を深めることができるということである。

また、ビジュアル解釈には文化的要素が大きな影響を及ぼす (Hecke 2014)。Goldstein (2016) は、文章や視覚的表現を含むすべてのテキストは、特定の社会的な文脈や実践の中で形成されるものであるとしている。つまりすべてのテキストは、社会的な背景や文化、そしてそれが生み出される状況に依存しているということである。よって、ビジュアルメディアが伝えるメッセージや意味は、文化的な文脈によって大きく異なる場合がある。異なる文化圏では、色、形、シンボル、画像の配置などが異なる意味や価値を持ち、同じビジュアル要素でも解釈が大きく変わることがあるということである。例えば、ある文化では特定の色が幸福や繁栄を象徴する一方で、別の文化ではその色が悲しみや危険を意味することもある。このような文化的な違いを理解することは、ビジュアルメディアのメッセージを正確に解釈し、意図された意味や感情を的確に把握するために重要である。また、文化的背景を考慮することで、視覚的な表現がどのように文化、社会的価値観を反映し、形成しているのかを理解することができる。したがって、ビジュアル分析ではその背景にある文化的な要素を深く考察することが求められる。

このような視点から、ビジュアルリテラシーの育成は、単に視覚情報を観察する能力を向上させるだけではなく、情報に対して疑問を持ち、批判的に分析し、評価するという思考プロセスを発展させることにつながる。さらにそれを言語化することで、コミュニケーション能力の向上も期待される。特に、言語学習者においては、言語処理のプロセスにビジュアルリテラシーを統合することで、言語スキルの向上が図れるだけでなく、現在社会において不可欠な視覚言語を学ぶことにも有効であるとされている (桐澤

2020)。ビジュアルを読み取ることにより、学習者はテキストだけでは伝えられない情報や感情を受け取り、またそれを伝達する方法を学ぶことでコミュニケーションがより豊かになる。

以上のことから、視覚的な表現を認識し、批判的に分析する機会を持ち、ビジュアルリテラシーを身につけることが言語学習において大きな意味をもつと考えられる。しかしながら、言語教育ではテキストを中心とした教育傾向があり、ビジュアルの解釈能力は軽視されがちである点には課題が残る。さらに、言語教育においてビジュアルリテラシーを取り入れた実践も、まだ十分に広まっていないのが現状である。これらのことを踏まえ、本実践では、日本語中級コースにおいてポスターを用いたビジュアル分析を行った。本研究では、ビジュアル要素がポスターのメッセージ伝達にどのような効果を持ち、学習者がそれをどのように分析、評価したかを考察する。また、ポスターはしばしば文化的要素を反映していることから、ポスターに表現されているイメージやデザインを読み取ることで、社会や文化を読み取る機会を提供し、それらがビジュアル解釈に与える影響についても学習者の分析を検証する。最終的には、様々なデザインや表現方法に慣れ、異なる視覚情報に対応する能力が向上すると考えられる。最後に、物事の様々な解釈方法の一つとして、言語教育におけるビジュアルリテラシーの潜在的な利点を探求する。

2. 実践内容

2.1 コース概要

本実践が行われたのは、アメリカ東海岸にある私立大学の中級 (5 学期目) の日本語コースである。2023 年秋学期に履修した 8 人の学習者のうち、5 人が英語圏、3 人がアジア語圏出身者であった。週 4 日、各 60 分のクラスを教科書を用いて行うなかで、「ビジュアルから学ぼう」と題した教科書外のユニットを 3 日間設け、実践を行った。

2.2 ビジュアルリテラシーユニット概要

このユニットの目的は以下である。

- ポスターのビジュアル要素の意味について考える機会を得る
- ビジュアル要素について分析したことを自分の言葉でまとめて説明することができるようになる
- ビジュアルに表れる文化的、社会的要素を読み取る機会を得る
- ビジュアルを分析、評価する練習をすることでクリティカルシンキングやコミュニケーション能力を高める

これらの目的から、言語習得だけではなく、ポスターのビジュアル要素が、ポスターによって伝えたいことや、伝わり方のニュアンスなどにどのような影響を与えるかなどについて、主にディスカッションを通して学ぶ機会とした。

教材としてポスターを用いた理由は、一枚の画像でメッセージを伝えるために、色や形、配置や構図など様々な要素に思考がなされているため、ポスターを読み解くことで、

ビジュアルの意味や効果、目的や文化社会的背景などを理解することができると考えたためである。これらのポスターのビジュアルが伝えるメッセージを文化社会的要素と合わせて深く検証し、活発なディスカッションを行う機会になると判断した。また、非日本語母語話者が文化社会的要素をどのように解釈し、そこからどのようなことが学べるのかを研究することを目的とした。

ユニットの流れは以下である。各授業で特定のポスターについてクラスで少し話し、それについてさらに深く考えをまとめてくるという予習を課し、次のクラスで学習者の分析について意見を交換した。ユニットの最後には学習者アンケートを行った。

表1 「ビジュアルから学ぼう」ユニットの流れ

	内容
1日目	「めでたし、めでたし？」ポスターの分析
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャンペーンポスターの分析 ・ 二つの商品のポスター導入、グループワークの準備
3日目	グループワークと発表
4日目	自分で選んだビジュアルについて分析し、ディスカッションボードに載せる。それを元にクラスでディスカッション。

以下、各授業で行った内容と学習者の分析、そして話し合いで学んだことを振り返る。

2.3 「めでたし、めでたし？」ポスター分析

ユニットの1日目は、鬼の子が描かれたポスターを見せて分析させた。「めでたし、めでたし？」と題されたこのポスターは、2013年新聞広告クリエイティブコンテストにおいて最優秀賞を獲得した作品である。その授業の前半まで、教科書の物語のあらすじを説明する練習を行ったため、そこで扱った昔話の桃太郎と関連付け、このポスターを提示し、Visual Thinking Strategies (VTS) で用いられている以下の質問について学習者同士で話し合わせた。

- ・ ここで何が起きているか
- ・ どうしてそう思ったか
- ・ 他に気づいたことは何か

VTSは視覚芸術作品についての議論を促す教育的アプローチであり、学生の批判的思考能力を高めることを目的としている (Yenawine 2013)。また VTS 以外に絵の色、明るさ、フォント、構図などのビジュアル要素にもより細かく注意を向けるよう促した。

このポスターについて学習者が気づいた点と分析は以下だった。

- ・ 構図がとてもシンプルであるため子供にも読みやすく、外側にスペースが空いて、中央の文字と絵にフォーカスさせる効果がある。
- ・ 悲しそうな鬼の子供が描かれているが、どうやらヒーローに誰かを殺されたようだ。ひときわ目に付く文字からそれが読み取れる。
- ・ 背景の白と、鬼の子の赤のコントラストが、鬼を際立たせている。それと同時に

「殺された」という文字がとても目立ち、好奇心をかきたてる。

- 子供が書いたような手書きスタイルである点が子供の鬼の悲しさを伝え、読者にもっと知りたいと思わせ、共感させる効果がありそうだ。
- 縦書きで書かれている点がマンガのようであり、背景にストーリーがあることを示唆している。

このように学習者は、上に挙げたビジュアル要素が、ポスターを見る人の好奇心を掻き立て、共感させるのに大きな助けとなっている点を指摘している。

その後、このポスターが広告大賞の作品であることを説明し、「めでたし、めでたし？」というタイトルについて考えさせた。「？」が意味することについて、鬼にとってはハッピーじゃなかったということを伝える「？」であり、そこに大きい意味があるとした。そして、たいていの昔話は「めでたしめでたし」というハッピーエンドで終わるが、このポスターによってハッピーではない鬼の気持ちを考えることができたという声もあった。鬼退治は一般的に褒められるべきこととして昔話では語られるため、このポスターは逆の立場から見せており、物語の他の視点について考えさせられたということだった。特に、誰かの幸せは誰かの不幸の上にあるということを強調していると答えた学習者がおり、多くの学習者がそれに共感していた。そして、他の一般的なおとぎ話についても、多様な視点について考えてみたいという声、自分のことだけではなく人のことを考えてもっといい世界にしたいと思ったという声が挙がった。

このポスターの分析を通し、学習者は様々な視点から読み取る大切さを認識したと言える。ポスターのタイトルに対する疑問符の意味や、通常の昔話やおとぎ話との比較を通じて学習者が異なる視点や文脈から物事を見る能力を養うことにつながったと言える。さらに、学習者が自身の考えや感情を表現し自己の成長や社会的責任についても考える機会ともなった。

2.4 キャンペーンポスター分析

2 日目に用いたのは、文化社会的要素がはいったクールビズのポスターであった。1 日目に用いた VTS とビジュアル要素の他に、ポスターの目的、対象者、文化社会的背景についても話し合わせ、学習者からは以下のような分析が挙がった。

- 青と白のコントラストが涼しさのイメージを持たせ、真夏のような日でも、このポスターに囲まれていたら涼しく感じると思う。
- ポスターの目的は環境保護で、日本でエアコンを強めに使う会社や家などをターゲットにしているのだろう。
- 文字が少なく、中央に配置されているため、イメージにフォーカスさせる効果と

図1「めでたし、めでたし？」ポスター



メッセージを強める効果がある。

- 小さい氷の上にペンギンが乗って浮かんでいる点が危機感を感じさせ、ペンギンの居場所がなくなるというメッセージを伝えている。
- ペンギンがうちわを持っているのが人のようで、擬人的な効果があり、人間にも危機が迫っているということを伝えているのではないか。

学習者は、色使いや配置などの視覚要素が、ポスターのテーマと環境問題というメッセージを効果的に伝えている点を認識したと言える。興味深かったのが、どうしてシロクマではなくペンギンを選んだのだろうと疑問を投げかけた学習者がいたことだった。それについては、日本人はかわいいものが好きである点を挙げ、小さくてかわいい動物の方が可哀そうだという感を強調させ、共感をあおるためではないかと分析していた。

次に、自分の国であればこのようなポスターが見られると思うかと聞いたところ、アメリカだったらこのようなイメージのポスターにはならず、もっと軽い服装などをアピールするだろうとし、アメリカではファッションよりも涼しくあることを重視する傾向があるとしていた。そして、アメリカではそもそも冷房の温度を上げようというキャンペーンにはならないだろうという声があり、その理由としては涼しくあることが重要なので、誰も気にしない点、そしてこのようなポスターがあれば、恐らく自由の国だからという批判が起こるはずであると述べていた。そして最後に、日本では夏でもスーツを着るというのが文化で礼儀だという考えがあるのだから、こういったポスターとなるのだろうと、文化社会的な要素がこのポスターに反映されていることを分析していた。

このポスター分析を通し、特定のポスターが特定の文化や社会にのみ適応することを認識し、異文化間の理解を深める機会となったのではないだろうか。学習者は、文化に適応したビジュアル選択が、見る者の共感を引き出し、環境保護への関心を高める手段として効果的に機能していることを理解した。視覚的情報が単なる装飾ではなく、メッセージ伝達や文化的理解に不可欠な役割を果たすことを学んだと言える。

このポスター分析から学んだ文化社会的背景の読み取りをさらに深めるために、次にグループワークを行った。まずクラスで雑誌「小学1年生」と、パナソニックのポスターを見せ、上に挙げた VTS、他の点を話し合い、それぞれがどのような商品のポスターなのかを説明した上で、3日目への足掛かりとした。

図2 クールビズポスター



2.5 グループワーク：「小学一年生」のポスター分析

3 日目は、2 日目の 2 つのポスターのうち、興味がある方を選んで考えてくることを宿題とした。クラスでは同じポスターを選んだ学習者ごとにグループに分けて話し合い、意見をまとめ、グループごとに発表を行った。

雑誌「小学一年生」は、小学校に入っただけの児童を対象とした学習雑誌である。このポスターを選んだグループは以下のように分析していた。

図3 「小学一年生」ポスター



- 空の青さが子供の明るい未来と希望をイメージしている。画像の多くを空が占めており、その中の子供とのコントラストから、世界は広く、一人の人は小さいものであるため、たくさん学ぶことができるという意味だろう。
- あまり建物が描かれていないのは、のどかな田舎でのびのびと育っている子供を描きたかったのではないか。日本の日常的な風景のイメージであるその風景を見せ、共感を得るためにこのような構図にしたのではないか。

このポスター上での文字は、左上の「こくご、さんすう、りか、せかい。」という白文字のみである。これについて、グループで話し合っている際に教師が小学校の主要 5 科目、特に科目としての社会について説明し、社会が「せかい」になっている点に注目させた。すると学習者は次のように分析をしていた。

- 「せかい」は、子供が自分の国の文化や歴史だけではなく世界を学べるという意味を表している。
- 文字がひらがなである点が小学 1 年生の子供をターゲットとしており、様々なものが散りばめられている様子を見て、子供がこの雑誌を見てみたいと思うのではないか、そして両親も子供に買ってあげたいと思うのではないかとマーケティング効果があるだろう。

ここで、他の文化的情報としてランドセルが挙げられたため、ランドセルについて知っている学習者に説明してもらい、小学校 6 年間使うもので、ピカピカのランドセルを使うことを楽しみにしている新 1 年生が多い点、小学校に上がる際に親戚が買ってくれる家庭が多い点など、日本の家族の文化の一つであることを理解させた。すると、ランドセルから色々なものが出ている点も、そこに子供の夢が詰まっており広い世界を学べる、そして学んでほしいという家族の夢も詰まっていることを伝えているのではないかと分析していた。また、他の文化社会的要素として挙げられたのは、子供が歩いて通学している点だった。アメリカであればスクールバスが使われるだろうとした学習者がいたため、子供のみで歩いて通学することが多いことを説明したところ、日本がその点安全な国であり、のびのびと育っているような描写になったのではないかとしていた。そして、

歩いて通学するという背景がなければ、ランドセルから物がたくさん出るという構図にはならなかっただろうとし、ビジュアル要素が日本ならではのメッセージを伝えるのにとっても効果を発揮していると分析していた。またあるアジア圏の学習者は、このポスターに対し逆に暗いイメージを持つと述べていた。子供の頃から勉強するように厳しく育てられてきた自身の経験からそう思うのかもしれないとし、そしてかばんが重そうである点からも、子供が大変だなという印象をもつとしていた。実際にランドセルはとても重く、それがネットで話題になることもしばしばあることを説明すると、大変な子供の生活が、重いランドセルで風刺されているのかもしれないと分析していた。このように、学習者の出身国の文化や社会によって多様な分析が見られるのは大変興味深い点である。

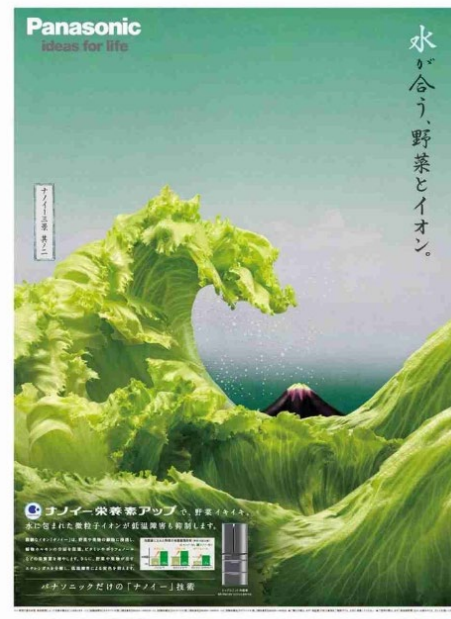
2.6 グループワーク：パナソニックのポスター分析

もう一つのポスター、パナソニックの冷蔵庫のポスターは、水から生まれた清潔イオン「ナノイオン」という冷蔵庫内の菌の繁殖や匂いを抑えて清潔に保存できるという商品である。葛飾北斎の版画を元にした鮮烈なデザインが特徴的なこのポスターについて、学習者は以下のように分析していた。

- レタスの明るさが際立ち、オリジナルの北斎の絵の青から緑への色の変更や、レタスや後ろのナスのイメージなどがとてもきれいで、野菜の新鮮さを伝えている。
- 緑は野菜のイメージが強いので、新鮮な野菜は体によく、元気になるというイメージを伝える。
- 波の下にあるのが塩のように見え、野菜を食べてほしいというアピールではないか。
- (美術の授業で学んだという学習者の、北斎のこの絵は富士山が実はメインであるという指摘から、) このポスターは山も波もどちらもメインのように見せている点が、やはり野菜の新鮮さ、重要性を伝えているのではないか。
- 主張しすぎないシンプルな文字のデザインは、詳しく読まなくても、イメージだけで伝わるだろうという意味があるのではないか。
- 書道のような縦書きのフォントが、古い北斎の絵とマッチしている。

特に、日本人になじみ深い北斎の絵の構図は、日本人には目に留まりやすいだろうとし、日本を代表するとも言えるこの絵は重要なものであり、そのデザインを活用することで野菜も重要であるというメッセージを表しているのではないかと分析していた。そして、パナソニックも北斎の絵のように歴史がある会社なので、その技術は信用ができるものであることをアピールしているのではないかとしたことだった。今でも日本人にとっては重要である北斎の絵を進化させたイメージのこのポスターが、パナソニックも歴史の

図4 パナソニックのポスター



ある会社で重要である点を強調し、さらにパナソニックが進化を続けていることを物語っているという結論に至った。

また、「水」という文字のみ色が異なることに気づいた学習者がおり、興味深い分析をしていた。水はイオン、青のイメージのため、波を緑にしていることは日本人の色についての感覚が関係しているのではないかということだった。日本では緑の信号を青という他、青りんご、青々とした芝生など、緑を青と表現することがあることと関係しているだろうと分析していた。そして、アメリカであれば、冷蔵庫＝食事＝家族というイメージをもっと強くするだろうと述べていた。このように、日本人特有の色彩感覚や歴史的なデザインの利用が、製品の信頼性や価値を視覚的に強調していることを考察することで、視覚的表現が異なる文化的背景に基づいて異なる解釈を生むことを学んだといえる。

この2つのポスターを扱ったグループワークから、学習者は商品広告の背後にある文化的な意味や価値観を読み取り、商品と文化の関連性、それがポスターの詳細に表れている点について理解を深めたと言える。また、異なる文化や経験を持つ学習者同士が意見を共有することで、ポスターに対する多様な分析を学び、新たな視点を取り入れる機会となった。

2.7 学習者が選んだビジュアルの分析

このユニットの締めくくりとして、学習者が自らビジュアルを選び、分析するという課題を課した。学習者は以下のどちらかを選ぶこととした。

1. 本やまんが、雑誌などの作品のカバーを一つ選び、カバーのビジュアルとその作品の内容について分析する。特に、その作品のストーリーやトピックと、カバーがどのように関係があるかについて、考えを詳しく書く。
2. 何かの商品(例：雑誌、飲み物など)や、啓発(例：幸せ、環境問題、マナーなど)のポスターを一つ選び、分析する。特に、その文化や社会的背景について、自分の考えを詳しく書く。

各学習者が、選んだビジュアルとその分析をディスカッションボードに載せ、互いにコメントし合い、その後クラスで話し合うというステップで行った。

ここでは、「ハイキュー!!」という漫画の最終巻の表紙を選んだ学習者の分析を紹介する。この漫画は高校バレーボールで全国大会を目指す物語である。最終巻の表紙にはメインの登場人物二人が大人になり、日本のプロのバレーボールチームに入っている姿が描かれている。裏表紙には、同じく大人になった同じ高校のバレー部員たちがそれぞれの仕事の服装の姿で描かれている。カバーを開くと、全員が同じ方向に向かっているようになっている。

このビジュアルについて学習者は、高校のバレー部員がそれぞれの仕事の服装をしているが、全員が左上のバレーボールへ飛んでいるように見えるため、「仕事は違うけれど、皆で一緒に明るい未来に向かおう」という団結のメッセージが感じられると、登場人物が向いている方向と目線に着目した分析をしていた。

ここで、逆に全員が右を向いていたらどのように違うと思うか、と問いかけてみた。視覚文化の研究で右向き左向きについて検証されているものの中では、日本語の縦書きの書物などの表記形式の影響で、日本人の目の動きは右から左の動くのが自然であるとされている(林 2016)。そして欧米人はその逆であるため、例えば日本語のポスターで人物が左向きになっているものが、アメリカ版では右向きになっていることがある、と指摘されている。この点について学習者からは、もし全員が右を向いていたら、「バレー生活から離れて、新しい生活へ」という印象になり、団結のメッセージが弱まるという声があった。バレーボールを続けている登場人物もおり、バレーボールによって結びついている絆があるため、このままがいいと思うとのことだった。また、日本語のマンガも右から左に読むスタイルのため、そのままのスタイルがしっくりくと判断したのだろう。今後は、こういった作品も向きや視線を変えるとどう違うかという分析などを通して、より興味深い解釈が得られるかもしれない。

学習者が分析するビジュアルを自分で選ぶことで、それまでに学んだビジュアル要素やビジュアル自体がどのようにメッセージを伝える効果があるかを、より実践的に理解することができる。色彩、構図、視線の向きといったビジュアルの要素が、作品や商品のメッセージをどのように強調したり、文化的な意味を付加したりするかを分析することで、視覚的な表現の効果とその意図を深く考察する力を養うことができる。また、自らの解釈を言語化するプロセスを通じて、ビジュアルが持つメッセージの複雑さや多様な解釈の可能性を理解することが可能となると言える。

3. 学習者フィードバックと考察

以上の分析を踏まえ、これらの分析を踏まえ、ユニットの最後に行ったアンケートでは全体的に肯定的な評価だった。以下、学習者の自由回答から考察する。実際の全体の学習者からのアンケート結果と自由回答は付録を参照されたい。

学習者からは、この実践でビジュアルをその場で分析することで、話す能力が向上したという意見や、新しい語彙を学ぶ機会が得られたという報告が見られた。また、興味のあるテーマであったため、より丁寧に表現しようと努力した結果、表現力が向上したと感じるという学習者もいた。少し難易度が高かったと回答した学習者もいたが、それが思考を深め、日本語で言いたいことをどう表現するかに挑戦する動機づけになったとのことだった。これらの回答から、ビジュアルから読み取ったメッセージを自分の言葉で表現することが、言語スキル、コミュニケーションスキルの向上につながったと言え

図5 「ハイキュー!!」45巻表紙カバー



る。特に、学習言語でそれを行うこと自体に言語教育的意義があるのではないだろうか。

学習者の中には、特定の画像が日本文化のどの側面を表現しているかを考えることを楽しんだという意見もあった。また、ポスターのメッセージが国によってどのように異なるかを考えることも興味深かったという声があった。ビジュアルを批判的かつ論理的に分析することが、異文化や言語をより深く理解するきっかけとなり、言語と文化がどのように関連しているかを理解する手助けになったことがわかる。

また、ビジュアルに興味を持っている学生が実際に多く、言語のクラスでもテキストだけでなくビジュアルを取り入れることで、学生の関心を引き付け、ビジュアルの有用性に気づかせることができることわかった。学習者の声からは、表現力が向上したという意見の他にも、視覚情報に長時間向き合うことで新たな詳細を発見したという声があり、この実践が身の回りの視覚情報に対してより深い興味を持つようになる機会となったのではないだろうか。そして、教師が考えつかなかったような分析が行われることも多々あり、学習者も教師も新たな気づきや多様な見方を学ぶことが促された。

この実践を通し、学習者はポスターから得られる情報を統合し、背景知識や関連するストーリーを活用してポスターを読み解く能力が向上したと言える。そしてそれらを批判的に分析、議論する能力など、ビジュアルリテラシーに関する重要なスキルを身につけ、様々なビジュアル要素に対する注意が高まったのではないだろうか。

4 今後の展望

今回は各ビジュアル要素について詳細に説明はしなかったが、今後は特定のビジュアル要素(例: 右向き・左向き、色彩、構図など)に焦点を当て、詳細に分析することで、学習者はポスターの意図やメッセージをより深く理解し、他のビジュアルコンテンツに対しても批判的にアプローチできるようになるだろう。また、今回のように文化社会的要素について分析する際に、例えば日本語と英語のポスターを比較し、違いを分析することで、学習者の異文化理解が深まる。単に言語を学ぶだけでなく、文化的要素を言語学習に統合することで、より包括的な言語運用能力が養われる。そして、カタカナなどの日本語特有の文字表現に注目させることで、学習者のメタ言語能力がさらに向上する。特に、どのような状況で特定の文字や表記が使用されているのかを分析させることで、言語の使用に関するより高度な理解が促進される。このように、ビジュアルリテラシーを基盤に、学習者が批判的に思考し、ディスカッションを通じて自分の考えを他者と共有する場を増やすことで、異なる視点や意見を取り入れることができ、より深く、多面的な議論を通して学習者の思考力と表現力が高まるのではないだろうか。

参考文献

- 桐澤絵里奈 (2021) 「日本語上級クラスにおける Visual Thinking Strategies を取り入れた授業の効果と課題」『APU 言語研究論叢』6, 95-102. https://doi.org/10.34409/apujlr.6.0_95
- 林佐和子 (2016) 「映画ポスターの日英比較—認知言語学の観点から—」金沢大学人間社会学域経済学類社会言語学演習『論文集』11, 1-27. <https://kanazawa-u.repo.nii.ac.jp/records/3792> (2023年8月8日アクセス)
- Ferreira, A., & Newfield, D. (2014). Critical visual literacy. In H. Janks, K. Dixon, S. Granville, A. Ferreira, & D. Newfield (Eds.), *Doing Critical Literacy: Texts and Activities for Students and Teachers*. New York: Routledge.
- Goldstein, B. (2016). *Visual literacy in English language teaching: Part of the Cambridge Papers in ELT series*.

Cambridge University Press.
https://linguaglobe.com/sites/default/files/cambridgepapersinelt_visualliteracy_2016_0.pdf (2023年5月8日アクセス)

- Hecke, C. (2015). Visual literacy and foreign language learning. In *The Routledge handbook of educational linguistics*, Routledge, pp. 171-184.
- Thompson, D. S., & Beene, S. (2023). Reading images with a critical eye: Teaching strategies for academic librarians. *University of New Mexico Digital Repository*, 423-434.
- Yenawine, P. (2013). *Visual Thinking Strategies: Using Art to Deepen Learning Across School Disciplines*. Cambridge, MA: Harvard Education Press.

<画像>

- 日本新聞協会. (2013). 広告事例研究. <https://www.pressnet.or.jp/adarc/adc/2013.html> (2023年9月10日アクセス)
- 石井デザイン. (2023年3月22日). サステナブルなデザインの未来 [パナソニック ナノイー], https://note.com/ishi_design/n/nc58102e76b51 (2023年9月6日アクセス)
- 毎日広告デザイン賞. (n.d.). 第77回 毎日広告デザイン賞 受賞作品. [小学一年生の画像]. <https://compe.japandesign.ne.jp/report/mainichi77/> (2023年9月8日アクセス)
- 九都県市首脳会議環境問題対策委員会. (n.d.). [夏のライフスタイルの実施キャンペーン], <http://tokenshi-kankyo.jp/> (2023年9月8日アクセス)
- Pinterest. (n.d.). [ハイキュー45巻], <https://www.pinterest.jp/pin/714383559638152466/> (2023年11月15日アクセス)

付録資料

アンケート結果

	5点満点平均
The unit enhanced my ability to interpret and analyze visual information.	4.2
The unit contributed to my understanding of the importance of reading and analyzing visuals.	3.8
The activities and resources in the unit kept me engaged and interested.	4
I feel more confident in applying visual reading skills after completing this unit.	3.4
The unit positively contributed to my learning experience in this course.	4.4
I believe reading visuals is an important aspect that should be integrated into future coursework.	4
The practice of analyzing visual content and discussing it in class has contributed to my language learning skills (e.g., vocabulary, comprehension, speaking	4.4
The exploration of visual content has helped me develop critical thinking skills.	3.6
The exploration of visual content and discussion in class have helped me develop diverse viewpoints and interpretations.	3.6

アンケートの自由記述回答

Please elaborate on how this unit has enhanced your language learning skills.

- I think I did learn certain vocabulary and phrases that helped describe more what I was seeing and feeling. I think it was a very helpful lesson.
- The speaking practice was the most useful part of this unit. Analyzing visuals on the spot helped improve my speaking ability. I also learned new vocabulary for describing images.
- Because it was a topic I was interested, I spent a lot more effort trying to craft my response, so it enhanced my ability to write more descriptively

- We were asked to express our thoughts on cultural and social backgrounds as well as visual composition. For the former, since we were shown thought-provoking images, I challenged myself to express thoughts on a deeper level, which was slightly beyond my current ability but I think it was a great exercise. For the latter, since we never explicitly learned expressions/vocabulary to discuss visual/stylistic things, it was also a good exercise that motivated me to think hard on how to say what I wanted to. I think this was the most challenging topic thus far and I appreciate being pushed to express myself beyond my comfort zone.
- I didn't learn any new words. But I do feel I improved my speaking skills by presenting the posters in class

Please elaborate on how this unit has improved your critical thinking skills and encouraged the development of diverse perspectives and interpretations.

- I'm not sure if it has helped my critical thinking skills, but it did help my language skills with vocabulary to analyze those types of posters and messages.
- I enjoyed thinking about how certain images represented aspects of Japanese culture. It was cool to think about how the poster's message might be different if it were in America or another country.
- Since we had to look at the same visual for a long time, I was able to identify details that I didn't notice before.
- I think I learned more about expressing things in Japanese than critical thinking. However I still think this was a great module because I needed the former more than the latter. :)
- No it doesn't improve my critical thinking skills.

その他のコメント

- I really enjoyed analyzing the cover of our choice and sharing it with other classmates
- I really enjoyed choosing our own visuals to analyze.
- At first I wasn't too sure, but as we kept going it became a lot easier to share my thoughts, and I think my speaking definitely improved due to the assignments.
- This part is interesting. I think the posters are perfectly designed and worth to be discussed about how the poster designers thought when they designed the posters.